

# 小児科だより vol.53

## ～ 新型コロナウイルスワクチン ～

2021.2.1 発行

こんにちは。最も寒く乾燥する時期となり、例年小児科外来は、インフルエンザや胃腸炎の患者さんが多くなるのですが、今シーズンは感染症で受診されるお子さんが激減しています。静岡県内の感染症の報告数（大人を含む）では、RS ウイルス感染症、手足口病、インフルエンザの1年間の報告数が、2019年はそれぞれ、3,360件、10,986件、48,651件であったのに対して、2020年は、271件、257件、15,967件でした。インフルエンザは2020年も多く報告されているように見えますが、新型コロナウイルス感染症が増加した夏以降で見ると、12件のみの報告となっています。様々な原因が考えられておりますが、ひとつは皆さんが毎日行っている感染症対策などの努力によって、これだけの結果がでていることが挙げられます。不安を煽って極度の制限を強いるより、地道な努力を評価して前を向いて進む必要があると感じています。



さて、今月の小児科だよりは、小児科とは直接関係しないかもしれませんが、質問をいただく機会も多くなってきた、新型コロナウイルスに対するワクチンについてのお話です。

ワクチンの効果に関しては、すでに報告されているように、一定程度の効果が期待できますが、アレルギーを始めとする副反応が気になる方も多いと思います。すでにワクチン接種の始まっている米国 CDC から1月6日時点の報告では、昨年12月14日から23日に、ファイザー製ワクチン接種が189万3,360回行われて、アナフィラキシー反応が確認されたのは21件（100万回あたり11.1件）でした。81%はアレルギー反応の既往歴のある人に発生し、71%が接種15分以内、86%が接種30分以内に発生したとのこと。なお、この21人のアナフィラキシー反応を起こした方は皆さん退院されており、迅速かつ適切に対応すれば命に関わることはほとんどありません。原因に関しては調査中ですが、一部ポリエチレングリコール（以下、PEG）を抗原とするアレルギー反応と考えられています。

PEG は、化粧品や歯磨き粉などにも含まれる物質ですが、多くの薬にも使われるものです。すでに欧米で接種が開始されているファイザー製やモデルナ製のRNAワクチンにおいても、RNAを包む粒子の構成成分としてPEGが含まれています。PEGを使用した薬剤でのアレルギーは、これまでも報告されており、詳細については調査の結果を待たれるところではありますが、PEGでアナフィラキシーを起こしたことがある方は、ワクチン接種を避けるべきと考えられます。今後も引き続き、ワクチン接種開始までに様々な検討がなされるべきであると考えます。